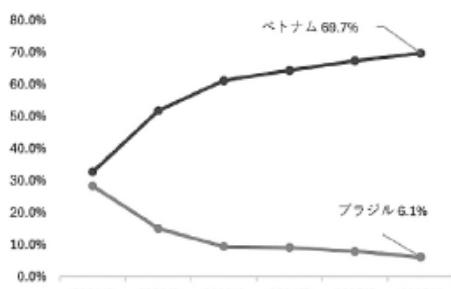
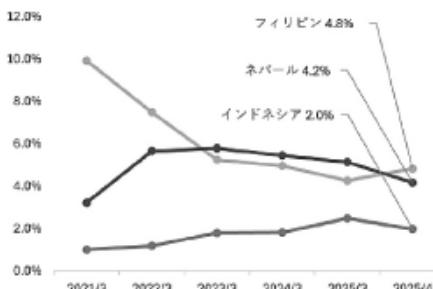


「ビレッジハウス 外国人の住まい探し対応 5カ国語に支援強化」

外国人の住まい探し対応

5カ国語に支援強化

ビレッジハウス
ビレッジハウス・マネジメント（東京都港区、
もさまざま外国人の賃貸住宅入居・契約・暮らしの問い合わせを母国語で支援できるよう、多言語対応を実現させていく。
岩元龍彦社長は、出身
フィリピン 4.8%
ネパール 4.2%
インドネシア 2.0%
日本語 26人で対応していくこととした。言語はもちろん母国文化を理解したスタッフが支援することで、入居者に寄り添った対応を実現させていく。



ビレッジハウス外国人新規契約者の国籍別割合の推移

直近1年間の個人新規契約者は、約38%を占めています。だ。始まります。今秋にはミャンマー語に対応する予定です。語を加えることで体制を強化する。今秋にはミャンマー語、ペトナム語、英語、ネパール語、インドネシア語を追加サポートを開始した。従来のポルトガル語、英語に加えて、ネパール語、インドネシア語、ペトナム語、英語、ネパール語、インドネシア語を追加サポートを開始することとした。

出入国在留管理庁の調査によると、昨年末時点での在留外国人は約376万人と過去最多になりました。国籍別ではベトナム人が63万人、ネパール23万人、インドネシア20万人、ミャンマー13万人だった。いずれも前年の23年未に比べ、5万人以上増えている。今年4月末時点での同社の外国人新規個人契約者では、ネパール人は4.2%、インドネシア人は2%を占め、今後も需要の伸びが見込まれることから同2言語のサポートを開始することとした。

今日は既存のネパール人社員と、6月入社のインドネシア人社員2人をチームに加え、計5カ国語26人で対応していくこととした。言語はもちろん母国文化を理解したスタッフが支援することで、入居者に寄り添った対応を実現させていく。